



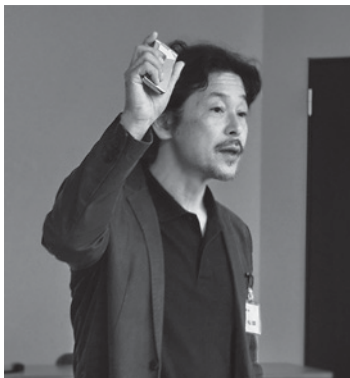
◇第20回生物工学懇話会 報告◇

(企画担当理事) 大政 健史・貝沼 章子・坂口 正明・水光 正仁

第19回生物工学懇話会は、2015年5月21日に開催された2015年度総会・評議員会終了後、同じ千里ライフサイエンスセンター501～503会議室において開催され、およそ80名の多くの方にご参加いただきました。誌面を借りまして演者の先生方、参加者の皆様ならびに関係者各位にお礼申し上げます。園元謙二先生の開会のご挨拶のあと、今回は下記の2題の講演を企画いたしました。以下に簡単に講演内容をご紹介します。

◆「気づく力がヒット商品を生む～ヒット商品を開発する為に～」

(株式会社 連由) 小山 由朗



(株)連由の小山由朗先生は、ヒット商品を連発しているご自身の経験に基づいて、その秘訣をユーモアたっぷりにお披露目されました。その中でも一番重要なのは、一人ひとりの気づく力を高めることです。ヒット商品を創造するには、「したい・やりたい・でも出来ない」「面倒くさいけれどどしかたなくやっている事」を常に意識する習慣を身に付けることです。その中に今まで満たされていないニーズ(未充足ニーズ)を読み取ることができます。会場の皆様方に「したい・やりたい・でも出来ない」ことを3分間で記入いただく場面がありましたが、5つ以上のニーズを出せる方は少なく、日頃からの訓練が必要なることを体験させていただきました。あらゆるものに対して、好奇心旺盛で、アナログ的で、現場を好む人ほどニーズを出せます。ニーズがあると行動を起こし、行動することによって、満足するという流れがあり、そのニーズが潜んでいる中身を理解するために

は、人の行動がなぜ起きているかを観察し、考えることが重要です。ヒットする商品のコンセプトを作るには、未充足ニーズからだけでは出来ません。なんらかのアイデアを入れて、新しい商品を提案していかなければならないことも事例を交えてご紹介いただきました。会場の皆様を圧倒する興味溢れる講演を頂き、懇親会までもたいへん盛り上がりました。(座長：サントリースピリッツ株式会社 坂口 正明)

◆「情報オリンピックと初等中等教育における情報科学教育」

(日本大学、情報オリンピック日本委員会) 谷 聖一

情報オリンピック日本委員会の専務理事もお勤めである、日本大学の谷聖一先生に情報オリンピックと情報科学教育についてのご講演を頂きました。

生物や化学といった中高生を対象とした国際科学オリンピックの一つに国際情報オリンピックがあります。その目的は、高校生までの生徒を対象に、数理情報科学に関する才能に恵まれた生徒を見いだし、その才能を伸ばすのを助け、また、選手・教育者同士の交流を促すことにあります。対象とする内容はコンピューターサイエンスであり、コンピューターそのものの開発は含まず、アルゴリズムやアーキテクチャーといった内容を競います。1889年以来毎年、世界各地で開催されており、2018年には日本での開催が予定されています。各国4名の出場者、総勢300名程が一堂に会して行われます。国内ではオンラインでの予選から始まり、段階を踏んで4名に絞り込まれます。途中の段階では、候補者が1会場に集まって競うことにより、単に競い合うだけではなく、参加者どうしのネットワークをつくることも目的にしており、若手の育成も念頭においたものとなっております。本選では1日5時間のコンテストを4日間行い、各国じっくりと競い合うようになっております。また、最後に初等中等教育における情報教育についても少しご紹介いただきました。初等中等教育においては、情報教育の重要性は謳われているものの、実際の学習時間はまだまだ少なく、本分野の育成のためには、そこから改善していく必要があるという示唆に富んだ内容でした。



(座長：大阪大学 大政 健史)